

竹島先生からギリシア語を教えて頂いた時代

近松 明彦

竹島先生のもと、私が古典ギリシア語を学び始めたのは、大学 3 年の年、昭和 60 年（1985 年）の春のことでした。昭和の後期、バブル経済前夜と言ってよい時期でもありましたが、広島大学の私たちの教室では、先生ご自身が語形変化表を声に出して読み上げられ、私たち学生に模範を示されていたご様子が印象に残っています。

ギリシア語に興味を持つ数名が、土曜日、定期的に竹島先生の研究室に集まって、ギリシア語の原書を輪読する読書会を行うようになったのは、その翌年のことだったと記憶しています。私はその年、新約聖書ギリシア語の文法について卒業論文を執筆していたのですが、この竹島先生の読書会でも、ギリシア語原典で福音書を読んでいました（とは言え、読書会と卒論ではテキストの別の箇所が扱われたので、一石二鳥ということではありませんでした）。その読書会はその後も継続し、記憶ではヘロドトスの『歴史』（最初の方の巻であったと記憶しています）、プラトンの『饗宴』（確か全篇）なども読んだように思います。

その後、私が大学院の博士後期に進んでから、竹島先生が大学院の文学研究科の授業を担当されることになり、Schwyzer によるギリシア語文法を講読する授業を受けました。秋からアメリカで現代言語学の研修を受ける事になっていたこともあり、私がこの講読科目を受講したのは、その年の前期のみとなりました。このとき、時代は既に平成に入っていたと記憶しています。

英語の授業を担当する際の現在の自己の授業スタイルが、そのころギリシア語学習の中で自分自身影響されたことと無関係ではない、ということを感じてようになりました。ギリシア語のような難解な言語を少しでも理解することが出来るようご指導くださった竹島先生に心より感謝しています。